

令和7年5月26日

学校法人 桑園学園
札幌情報未来専門学校
自己評価委員会
学校関係者評価委員会

令和6年度 学校関係者評価委員会 議事録

1. 日 時 令和7年5月26日(月) 16:40～18:00

2. 場 所 札幌情報未来専門学校 会議室

3. 開催名 令和6年度 学校関係者評価委員会

4. 対象学科 IT システムエンジニア学科

5. 出席者

・外部委員

北海道リージョナルリサーチ 監事

大野 俊 様

IT 系分野専攻 大学講師

小賀 聡 様

札幌情報未来専門学校 卒業生代表

英 大典 様

・司会・進行

札幌情報未来専門学校 校長・理事

小林 仁

・記録

札幌情報未来専門学校 教務部 マネジャー

北國 裕太

6. 議 事

(1) 令和6年度自己評価について

- ・自己評価アンケート集計結果
- ・問題点の抽出および改善・意見

(2) 次年度動向について

- ・大学編入制度の開始

(3) その他 ご意見等

(1) 令和 6 年度自己評価について

1 教育理念・目的 における問題点

◆校舎の老朽化について

《改善・対策》

(小林) 中長期にわたる具体的な計画を検討していく。

2 学校運営 における問題点

◆業務システム老朽化・不具合がある。業務効率化のため早急の対策が必要。

《改善・対策》

(小林) 業務要件を満たすパッケージシステムの選定を行っているが、導入コストが高額であるため、他の方法も含めて再検討中である。

(英 様) システムの不具合はどの程度業務に影響しているか。

→ (北國) 一部帳票印刷機能が動作せず、手作業で行っている。また、マニュアルも不十分であるため、期末処理で余分な工数が発生している状況。

→ (小林) 学生管理や他の校務にも影響するため優先的に対応していく。

3 教育活動 における問題点

◆人材不足による教員の業務負担の増加について

《改善・対策》

(小林) 採用強化の成果があり、今年からクリエイター系の講師 1 名を増員した。企業連携も強化し、Web やデザイン系科目の充実化を行っている。IT 業界はトレンドの変化が早く、ニーズに合わせてカリキュラムも変化していくため、今後も実務に特化した人材の採用活動に力を入れる。

4 教育成果 における問題点

◆資格取得率の向上について

《改善・対策》

(小林) 国家試験合格率について、カリキュラム改善を行い、指導を強化している。

→ (北國) 模擬試験の導入や対策講座により全国水準の合格率を維持、今後は更なる合格率向上および、上位国家試験の対策も強化し、改善を行う。

5 学生支援 における問題点

◆学生サポート体制について

《改善・対策》

(小林) 精神的な不調による登校出来ない生徒が増え、休学や退学に繋がるケースが多い。対策として業務効率化により教員の時間確保を行い、指導時間を確保する。また、必要に応じてスクールカウンセラー配置について検討する。

6 教育環境

◆教育設備の整備について

《改善・対策》

(小林) ゲーミング実習室の PC が老朽化によりトラブルが増えているため、2025 年度に入れ替えを検討中。また、学生用貸与ノート PC については、管理運営や購入方法も含め、社会状況にあった方法を検討する。

高校においても一人 1 台 PC が浸透してきており、個人所有している学生も多いため、本校としての取扱い方法を再検討する。

7 学生の募集 における問題点

◆学生募集活動について

《改善・対策》

(小林) 少子化の中、ここ数年で競合他校が増え、競争が苛烈になっていくため、より費用対効果の高い募集戦略を検討し、本校の特色を高校や生徒、父母に浸透をはかる。

8 財務 における問題点

◆中長期的な学校の財務基盤について

《改善・対策》

(小林) 安定した財務基盤構築のため、ニーズに合わせた最先端カリキュラムの導入や、2026 年度より開始する大学編入制度を訴求し、専門学校入学者数を確保する。

9 法令等の遵守 における問題点

◆法令等の遵守と適正な運営について

《改善・対策》

(小林) 法令の改正や問題点を改善するため、規定文書の作成、職員への教育を徹底する。

10 社会貢献

◆学校の教育資源や施設を活用した社会貢献について

《改善・対策》

(小林) 人員確保を行い、中学生体験授業の受け入れを充実させるとともに、高校教員向けセミナーの実施を検討する。

(2) 次年度動向について

・大学編入制度の開始について

(小林) 2026年度生から、インフォメーションテクノロジー学科において大学編入制度を開始する。

大学併修制度と違いダブルスクールにはならないため、学生の時間的、経済的負担を抑えることができる。

→ (小賀) 道内で同じような実例がない中、経済負担を抑えながら学びを継続できる魅力的な制度であるとする。

(3) その他

・特になし

以上